

H A G

萩

題字は吉田松陰筆跡

76

SUMMER ISSUE 2015

茶室展示 井上雅之「初形より一花型」

平成27年(2015)4月11日[土]～平成28年(2016)3月27日[日]



イメージの豊饒へ

—井上雅之「初形より—花型」に寄せて

石崎 泰之

「人が美を産み出す力はどこから興ってくるのだろう」と、作品を目の当たりにこのような創造性への素朴な問いを発することはないでしょうか。

とりわけ、作るという行為によって自己を一つのかたちに表示する美術や工芸の領域では、この人間存在の根源に問いかけるようなアプローチから、作り手と素材・技術の関わりという観点を除外するわけにはいきません。たとえば一つの個性が或るかたちとして表現されるとき、作り手がその心奥で想起したイメージをどのような手段で可視化したかということ、つまり作り手と素材との親密さを基準にその制作のプロセスが規定されることの意味について考えさせられる機会は決して少なくはありません。

ところが、素材の持っている可能性をさまざまに引き出して、人を魅了する洗練されたかたちにしようとする作り手の自由な意思も、それを支える術がなければたちまちおぼつかなくなってくるでしょう。素材との濃密な関わりのなかで生じてくる新たな経験も含め、作り手が心的なイメージを一つのかたちに立ち上げるには、素材に適った技の獲得とその錬磨が不可欠といわれる所以です。陶による造形表現のこのような素材や技術とイメージの関係も、世界の認識を通して立ち現れてくる或るかたちを一つの手法で翻訳しながら写し取る描画の営みにも似て、表現が前かたちが前かちという問題を孕んではいますが、イメージを別の秩序に組み替えるプロセスに他ならないのです。

関東平野のほぼ中央に屹立する紫峰筑波山。井上雅之さんはその山麓(茨城県石岡市)に自宅兼アトリエを構えながら、自身も学んだ多摩美術大学(東京都八王子市)の工芸学科で長年教鞭を執ってきました。

この精力的な陶芸作家は、1980年代に自作の砕いた陶片をアサンブラージュ(寄せ集め)した賑やかな作品で当時の陶芸界に新風を吹き込み、以後も独自の実験的な方法論を実践展開して、素材と技術に寄り添う陶芸的表現とその制作活動の在り方に対して、ときには懐疑的とも思われるほど強烈で斬新なメッセージを発信してきました。伝統的な作陶技法で土を立ち上げて焼いた陶のパーツを、ボルトでジョイントした大きな構造物として成立させる井上さんならではの陶の造形表現は、その手法もさりながら不定形のかたちの生々しい動勢と重層的に施された多彩な化粧土の熔融状態の複雑な質感とが相俟って、観る者の想像力を喚起する力強い生命観を表象しています。

ところで、今回発表の陶と鉄を結合させた作品《HU-153》も含め、これまでの井上さんの作品を振り返るとき、その作風にイメージの解体と再構築という方向での一貫性が鮮やかに抽出できるのは、かれがつねにイメージを思考の問題として捉えて制作を重ねて来たということのもっとも明快な証でしょう。それは、ただ一つの形式をよりどころとするかたちへの意識から解き放たれて、豊かにひろがるイメージに自己のアウトラインをそっと慎重に重ねてみる行為に他ならず、しかしながら一旦イメージと結び合った

アウトラインとしてのかたちは、こんどはそれが空想されるよりどころとなっていくという、いわば作る者と観る者それぞれの想像力の衝突であることへの深い考察がうかがえるからです。

その造形思考に、ルネサンス的遠近法すら覆すほどの多彩な様相を呈して、眩惑的な表現世界を現出させたバロックの美意識に相通じるところがあるという、1920年代以降とりわけ戦後の陶芸におけるモダニズム論的陶芸観へのアンチテーゼとか、現代美術におけるポストモダンの流行性の追従のようにも思われるかも知れませんが、そうではなく、何ものにも限定されないイメージの表出を探究して真摯な思考を積み重ねる個性によって立ち現れた、純粹感覚としての陶のかたちを志向する革新的な陶表現の現在形にほかなりません。

茶室とバルコニー、そして渡り廊下の明るい空間にたたずむ、イメージの根源に思いを馳せて再構築された井上さんのかたちは、観る者の想像や空想の力に結びつくことでさまざまに共鳴するときに静かに待っているのです。

(当館学芸専門監兼学芸課長)

- ① HU-152 197.0×208.0×42.0 (h.)cm 陶 2015年(バルコニー)
- ② HU-151 165.0×172.0×78.0 (h.)cm 陶 2015年(茶室)
- ③ HU-153 191.0×175.0×192.0 (h.)cm 陶、鉄 2015年(渡り廊下)

茶室展示 井上雅之「初形より—花型」
平成27年(2015)4月11日[土]～平成28年(2016)3月27日[日]



①



②



③

特別展示 木版画家 立原位貫 — 江戸の浮世絵に真似ぶ

展覧会によせて

たち原 いぬき
立原 位貫

浮世絵版画は、琳派の絵と共に、日本を代表する美術である。と云う評価は、近頃の大方の意見として認められているところですが、そのような見方が日本国内で認められるようになったのは、意外にも近年になってのことではないでしょうか。

少なくとも浮世絵版画に対してはそのように思われます。長い間、江戸と云う時代を井の中の蛙的な空気の中で過ごしてきた日本人にとり、明治開化以来、洪水のように流入した欧米文化の蔓延は、日本人に過大な劣等感をもたらすものでもあったように思われます。

その大きな流れの中で見ると、そのような感覚は現在も無意識に日本人のなかに染み込んではいないでしょうか。今から30年以上前、私はある知人から「知り合いの家の倉から木箱一杯に入った浮世絵が見つかったので紹介するから見に行ったらどうか。」と云う話を聞かされました。

早速そのお宅に伺うとその家のお婆さんらしき人が出てこられ、その浮世絵を拝見したい旨を伝えると、そのお婆さんはまるで私を穢らわしいものでも見るかのようにこう言いました。「あんなみつももないものを他人様に見せられません。今しがた庭に出して焼いたところです。」

玄関越しに見える庭ではまだその煙がくすぶっていました。このようなことは特別なことのように思われますが、あながち他でもなかったとは言い切れなんでしょう。少なくともこの家の人にとって浮世絵版画は誇れるものではなかったのです。

ところでこの数年、特に若い人達の間で、一種の浮世絵ブームが起きているようですが、これには少し今迄の浮世絵ブームと違うものを感じます。

それは江戸末期に活躍した歌川国芳と云う絵師に対しての評価が大きく影響しています。その国芳の版画に対して興味を示す多くの若者は、国芳の絵を江戸的なものとしてとらえていない所に大きな特徴があるように思われます。浮世絵イコール江戸情緒と云う、通り一辺倒な見方からは計り知れない魅力が国芳の絵には横溢しているのです。

その魅力に対する共感、戦後教育の中での美術に対する捉え方の広がり、その流れの中に於ける現代美術に向けられた意識、ひいては最近の漫画やアニメブーム等も大きく関わっているように思えます。

夜の海に浮かぶ、まるでブリキで出来たゼンマイ仕掛けのオモチャのような怪魚。

霜降り肉の塊の断面のように描かれた江の島。そして裸体の男達を寄せ集めて出来上がった男の顔、等々。

これら国芳によって描かれた浮世絵に日本的な要素がないのかと云うと、決してそんなことはありません。

国芳の描くこのような作品は、一見日本的な情緒からは遠いもののように思えますが、本来日本人はその歴史からも読みとることが出来るように、何かに偏った物の見方や受け入れ方とはおおよそ無縁な、悪く言えば無節操、良く云えば柔軟な心の働きで様々な異文化を取り入れてきた民族なのではないでしょうか。

このような日本人が長い歴史の流れの中で身に着けてきた多様な心の働きの中で、浮世絵版画は江戸と云う時代の、ある特定の地域で成熟した文化です。

それにしても浮世絵版画に描かれた種々多様な人間、風景、事象等がどうしてこんなに私達に郷愁や共感を感じさせるのでしょうか。

そこに描かれた様々なものは、現代の私達の生活から消え去ったものが殆どです。

又その多くが身に覚えのないものばかりです。でも何故か懐かしいと思ったり、共感したりするのです。

そのように感じる理由が何処にあるのか。

その答えの一つは、浮世絵版画を底辺で支えているその素材や技術にあるのではないのでしょうか。その最も特徴的なものに、素材であれば、和紙、絵具、版木、道具で云えば馬連、彫刻刀、刷毛等、これらが持つ特性、魅力こそが、浮世絵がどんなに過去の時代に描かれたものであっても、どんなに現代の生活と違ったものであっても、それを見る私達に心の底で通じるものを感じさせる大きな

要因であるように思われます。

これらの多くは日本の風土、自然に根差したところから生まれ、成熟したものばかりです。浮世絵版画に対する学術的な研究は、国内外に於いて目覚ましい進歩を遂げた感がありますが、残念ながらその制作現場に於ける素材や道具等の研究は置き去りにされたものが多くあります。

特に江戸時代の浮世絵版画がどのような素材で、どのように制作されたのかは、明治と云う時代を境にその多くが不明になってしまいました。

今回の展覧会は、それら浮世絵版画を浮世絵版画たらしめている素材や道具、そしてそれらから派生した技術に光を当てることで、浮世絵版画がより親しい、魅力あるものとして、又そのことで新しい発見をも得られる機会であると思います。

このような視点で各々の絵を見ることにより、日本の木版画の魅力をより深く感じていただけることを願いつつ。

2015年7月

立原位貫



たち原 いぬき
立原位貫 プロフィール

1951年、名古屋生まれ。ジャズのサクソ奏者として活躍していた25歳の時に、浮世絵版画と出会い、その魅力に惹かれ、浮世絵版画の復刻を独学ではじめる。彫摺の技術だけでなく、浮世絵版画の伝統的な画材、特に色料について研究を重ねてきた。近年では、復刻を通じて習得した技術や伝統的な画材を用いてオリジナルの作品を制作し、また夢枕獃氏や江國香織氏の小説挿絵を担当するなど活躍の場を広げている。



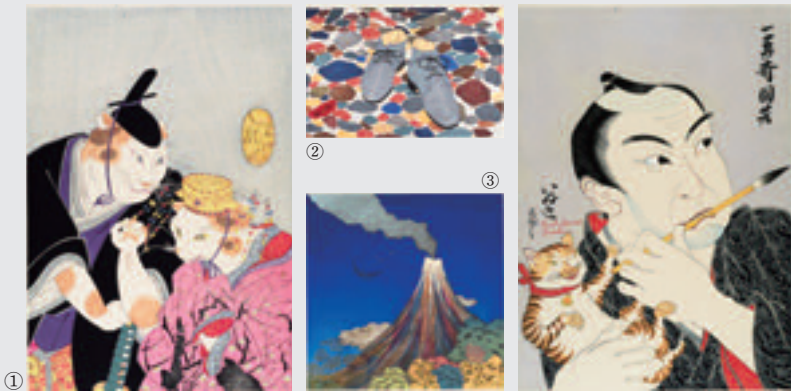
木版画家 立原位貫 江戸の浮世絵に真似ぶ
2015年 8月29日(土) - 9月27日(日)

朝日新聞西部本社発刊80周年記念
木版画家 立原位貫
江戸の浮世絵に真似ぶ

開館時間 ● 9:00 ~ 17:00 (入場は 16:30まで)
休館日 ● 9月14日 [月]
観覧料 ● 一般1,000 (800)円、70歳以上・学生800 (600)円
※()は前売りおよび20名以上の団体割引料金です。
※18歳以下の方、および高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒は無料です。
※前売り券は、ローソンチケット(Lコード68719)、セブンチケットおよび県内各プレイガイドでお求めください。

主催 ○ 立原位貫実行委員会 (山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab 山口朝日放送)
後援 ○ 山口県教育委員会、萩市 特別協力 ○ エフエム山口

立原位貫氏(1951~)は、浮世絵版画の彫摺の技法を独学で習得し、江戸時代の浮世絵版画に使われた素材や道具についても研究を重ね、文字通りの復刻、復元を行う唯一の作家です。今回の展示では、復刻作品と原画である浮世絵版画の比較、素材や道具の紹介、立原氏のオリジナル作品という3つのセクションによる約90点を展示いたします。浮世絵版画が職人技の集大成であると実感していただく機会となれば幸いです。



①「猫のひな祭り」多色摺木版画 平成9年(1997) / ②「ブルー・レイ」多色摺木版画 平成20年(2008)
③「不二」多色摺木版画 平成20年(2008) / ④「一勇斎国芳」多色摺木版画 平成23年(2011)
※掲載作品は、すべてM&Y 記念館所蔵。 版画・題文字:立原位貫 photo:うげやん

関連イベント

記念講演会 『浮世絵版画の楽しみ方 -その素材と技術から見えるもの』
※聴講無料・申込不要
講師:立原位貫氏
日時:8月29日[土]14:00~15:30
会場:講座室(当日受付先着順)

伝統画材ワークショップ
浮世絵版画に使われた伝統的な画材について、各分野の第一人者をお招きし、つくる人、つかう人の立場から少し専門的な内容まで解説していただく連続講座。興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

日時:①8月30日[日] 9:30~12:00 『膠』
講師:上田邦介氏(絵具屋三吉 代表) 富澤千砂子氏(六法美術 代表)
②8月30日[日] 13:30~15:30 『和紙』
講師:池加津夫氏(土佐和紙)
③8月31日[月] 9:30~12:00 『青色の色料 藍・青花』
講師:森芳範氏(本藍染 紺九) 落合雪野氏(龍谷大学 教授)
会場:陶芸館 多目的室 定員:各回 定員30名
※参加無料(ただし、展示をご覧になる場合は別途観覧券が必要)
申込方法:受講する全員の氏名、住所、電話番号、希望する講座の番号(①②③)を明記の上、FAX(0838-24-2403)か往復はがきにてお申し込みください。連続受講も可能です。各回、定員になり次第、受付を締め切ります。
申込先:〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1 山口県立萩美術館・浦上記念館 「伝統画材ワークショップ」係

ギャラリー・ツアー (担当学芸員による列品解説)
※参加無料・要観覧券
日時:9月6日[日]、13日[日]、27日[日] 11:00~12:00
会場:本館2階展示室

アーティスト・トーク ※参加無料・要観覧券・申込不要
講師:立原位貫氏(本展出品作家)
日時:9月20日[日]、21日[月]、22日[火] 14:00~15:30
会場:本館2階展示室

タッチ&トーク ※参加無料・要観覧券
立原氏の復刻版画を手にとって鑑賞していただけます。
日時:毎週土曜日 11:00~12:00
会場:本館2階展示室

青磁のいま

—受け継がれた技と美 南宋から現代まで

CELADON NOW: TECHNIQUES AND BEAUTY HANDED DOWN FROM SOUTHERN SONG TO TODAY

平成27年(2015)

10月10日(土) - 11月29日(日)

休館日 ● 月曜日(ただし10月12日、10月26日、11月9日、11月23日は開館)

開館時間 ● 9:00 ~ 17:00 (入場は 16:30まで)

観覧料 ● 一般1,000 (800)円、70歳以上・学生800 (600)円

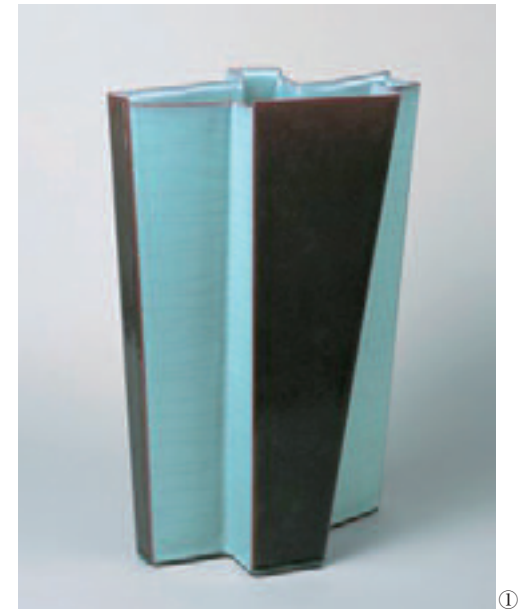
※()は前売りおよび20名以上の団体割引料金です。

※18歳以下の方、および高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒は無料です。

※前売り券は、ローソンチケット、セブンチケットおよび県内各プレイガイドでお求めください。

主催 ○ 青磁のいま展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY 山口放送)、NHK プラネット中国

後援 ○ 山口県教育委員会、萩市



緑色を基調とした美しい釉色が特徴の青磁は、古代中国における玉への憧れから生まれたとされ、古来日本でも天皇や貴族、武家、茶人らに珍重愛玩されてきました。現代においても、その美感に魅入られた愛好家のみならず、数多くの制作者が自己を表現する対象として青磁の技術を競い合っています。

本展では、第I章で日本に伝わった中国・南宋時代(12~13世紀)の官窯や龍泉窯の名品を、第II章では青磁の美しさに魅せられてその再現に全身全霊を傾けた、板谷波山や岡部嶺男など11名の物故作家の作品を、第III章では人間国宝の中島宏をはじめとする現役の気鋭作家10名の個性豊かな最新の青磁まで、時代精神を映し出した約120点を一堂に展示して青磁の魅力に迫ります。

① 高垣篤 《茜青瓷一相象》 平成22年(2010) 兵庫陶芸美術館蔵 / ② 重要文化財 《青磁輪花碗 銘 馬蝗絆》 龍泉窯 南宋時代 13世紀 東京国立博物館蔵
③ 岡部嶺男 《窯変米色瓷博山炉》 昭和46年(1971) / ④ 中島宏 《青瓷彫文花生》 平成24年(2012) / ⑤ 福島善三 《中野月白瓷鈿文鉢》 平成24年(2012)

関連イベント

● 記念鼎談 『青磁に魅せられて』
※聴講無料・申込不要
講師:唐澤昌宏氏(東京国立近代美術館工芸課長、本展監修者) 中島宏氏(「青磁」の人間国宝、本展出品作家) 高垣篤氏(本展出品作家)
日時:10月10日[土] 13:30~15:00 (開場13:00)
会場:講座室(84席 当日受付先着順)

● アーティスト・トーク 《中野月白瓷について》
※要観覧券・申込不要
講師:福島善三氏(本展出品作家)
日時:11月1日[日] 13:00~15:00
会場:講座室(84席 当日受付先着順) 本館2階展示室

● ギャラリー・ツアー (担当学芸員による列品解説)
※要観覧券・申込不要
日時:10月18日[日]、25日[日]、11月15日[日]、22日[日] 11:00~12:00
会場:本館2階展示室

第23回 世界スカウトジャンボリー開催記念 特集展示

やきものと浮世絵に遊ぶ

会期

平成27年(2015)

7月7日[火]～8月16日[日]

観覧料

普通展示の観覧料*でご覧いただけます。

* 一般300(240)円、学生200(160)円

※()内は20名以上の団体料金です。

※70歳以上の方と18歳以下の方、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍する生徒は無料です。

※身体障害者手帳、戦傷病者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持されている方、およびその介護者(1名)は無料です。

第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)が、平成27年7月28日[火]から8月8日[土]までの日程で、山口市阿知須・きらら浜をはじめとする山口県内の各地で催されます。

このたび、これを記念して、〈やきもの〉と〈浮世絵〉で編成したコレクションの特集展示「やきものと浮世絵に遊ぶ」を開催します。人類の文化活動の根底に滔々と流れる「遊び」のおもしろさを、やきものと浮世絵版画におけるさまざまな表現について、技法の基礎知識とともに紹介する展示です。生きる力の源泉として人間が心の奥深くに抱き続けてきた、創造的機能としての「遊び」の精神をやきものや浮世絵版画のかたちから再発見していただければ幸いです。



①



②



③



④



⑤

- ① 萬寛塚 《人間というもの》
2010年 撮影：下瀬信雄
- ② 《三彩騎馬婦人俑》
中国・唐時代 8世紀
- ③ 《青花唐子遊園血》 景德鎮窯 古染付
中国・明時代 17世紀
- ④ 鈴木春信 《坐鋪八景 鏡台の秋月》
中判錦絵 明和3年(1766)
- ⑤ 東洲斎写楽 《二代目瀬川富三郎の大岸蔵人妻やどり木》
大判錦絵 寛政6年(1794)

KŌGEI WEEK 2015

〈一般参加プログラム〉

参加者募集のお知らせ

本年7月28日[火]から8月8日[土]までの日程で、第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)が山口市阿知須・きらら浜など山口県内の各地で行われます。

当館ではこれを記念したコレクションによる特集展示「やきものと浮世絵に遊ぶ」を開催しますが、さらに体験型のワークショップを通して「やきもの」と「浮世絵」をより身近に感じていただくため、山口県PR本部長で世界スカウトジャンボリーオフィシャルサポーターでもある「ちよるる」の親しみやすさと、「和」の伝統的な遊戯文化に取材した教育普及プログラム《KŌGEI WEEK 2015》を企画しました。

《KŌGEI WEEK 2015》は、開催日と内容において、①(23WSJプログラム)と②(一般参加プログラム)に分かれており、このたびは〈一般参加プログラム〉の参加希望者を下記の要領で募集します。参加費はいずれも無料です。

A 「わたしの“ちよるる”」 — 鑄込成形と上絵付

日時：平成27年8月2日(日)10:00～12:00、3日(月)13:00～15:00

講師：禹寛塚氏(韓国・弘益大学校美術大学教授)

内容：“ちよるる”の石膏型に磁土の泥漿を流し込んでかたちをつくる鑄込成形と、素焼の“ちよるる”の上絵付を体験します。ご自身が絵付した“ちよるる”については、本焼後に宅急便(料金着払い)にてお手元にお届けします。お手元に届いた“ちよるる”をご自宅やお近くまたはお気に入りの風景の中で撮影し、Twitterにハッシュタグ(#kogeiweek2015)を付けて投稿しましょう。平成27年(2015)12月25日(金)までに投稿された画像は、当館エントランスホールに掲示して公開します(ただし、当館が展示に不適当と判断した画像は展示対象から外れる場合があります)。

募集：各日40名(受付先着順とします。小学生の参加は保護者の同伴が必要です。)①参加希望者全員の氏名・年齢と、②代表者の住所・日中に連絡が取れる電話番号③参加希望日を明記のうえ、FAX(0838-24-2403)または電話(0838-24-2400)にて「わたしの“ちよるる”」係へ7月24日(金)までにお申込みください。



上絵付けを施す前の素焼“ちよるる”

B 「わたしと“ポチ袋”」

日時：平成27年8月2日(日)10:00～12:00、3日(月)13:00～15:00

講師：山崎文代氏(有限会社伊勢一商店) ※講師による指導は8月2日(日)のみ

内容：江戸時代には浮世絵版画と同じく木版で摺られた千代紙。本ワークショップでは伝統的な図柄の千代紙を使ってオリジナルのポチ袋をつくります。

募集：各日40名(受付先着順とします。小学生の参加は保護者の同伴が必要です。)①参加希望者全員の氏名・年齢と、②代表者の住所・日中に連絡が取れる電話番号③参加希望日を明記のうえ、FAX(0838-24-2403)または電話(0838-24-2400)にて「わたしと“ポチ袋”」係へ7月24日(金)までにお申込みください。



C 「わたしも“北斎”」 — 浮世絵版画の摺り入門

日時：平成27年8月2日(日)13:30～16:00、3日(月)10:00～12:30

講師：渡邊章一郎氏(株式会社渡邊木版美術画舗 代表取締役) 林勇介氏(株式会社渡邊木版美術画舗 摺師)

内容：版元と摺師による解説と実演見学の後、葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》の摺りを体験的に学びます。

募集：各日10名(受付先着順とします。小学生の参加は保護者の同伴が必要です。)①参加希望者全員の氏名・年齢と、②代表者の住所・日中に連絡が取れる電話番号③参加希望日を明記のうえ、FAX(0838-24-2403)または電話(0838-24-2400)にて「わたしも“北斎”」係へ7月24日(金)までにお申込みください。



ワークショップイメージ(平成25年の実施風景)

普通展示 (陶芸)

佐藤典克展

現在形の陶芸 萩大賞展Ⅲ 大賞受賞者展

(2015) 10月6日[火] ~ (2016) 1月17日[日]
会期：平成27年 10月6日[火] ~ 平成28年 1月17日[日]



①

平成25年度(会期：2014年1月2日~2月2日)に開催された公募展「現在形の陶芸 萩大賞展Ⅲ」において《縹器》で萩大賞に輝いた、佐藤典克さん(昭和49年(1974)生まれ)の近作を発表する個展です。

佐藤さんは、東京藝術大学大学院美術研究科の陶芸専攻を修了した後、平成15年(2003)に神奈川県相模原市で独立開窯して本格的な作陶生活に入った新進気鋭の若手作家です。萩大賞受賞後も彼が作品発表のメインステージと位置づける日本伝統工芸展をはじめ、第10回国際陶磁器展美濃の国際陶磁器コンペティション(陶芸部門)や第23回日本陶芸展、第59回ファエンツァ国際陶芸展といった内外の著名な公募展で入選を果たすほか、各地で企画されるグループ展への積極的な参加など、じつに精力的な制作活動を展開しています。

大きく開いた口縁部と舟形に面取りした脚部の形式、そして純白の磁胎の柔らかな肌合いに共通性がある《縹》シリーズは、

かれの造形思考の斬新性がよく表れた器だといえます。

佐藤さんの器の制作は、轆轤回転の遠心力が立ち上げる均衡ある対称性のみにかたちの美質を求めるのではなく、轆轤で立ち上げた筒形の器胎に磁土を肉付けしたり削ったりしながらかたちの均衡を整える手づくねという技法を併用して、手業を重ねることで生じる微かな動勢(ムーブメント)でかたちの美質を探るというまったくユニークなスタイルです。文字通りシリーズ名の《縹》を立体的な構造として実感できる力強い陶表現となっています。

大賞受賞者を顕彰する本展では、受賞作《縹器》と公募展以降に制作された新作を紹介します。この作家が自身のスタイルをどのように発展させていこうとしているのかをご覧ください、今後、造形的にも技術的にも大きく飛躍して成長していくことを、皆様とともに見守っていききたいと思います。

(石崎泰之/当館学芸専門監兼学芸課長)

アーティスト・トークのお知らせ

日時：10月11日(日)
11:00~12:00、14:00~15:00
場所：陶芸館2階



②



③



④

- ① 《縹器》 2013年 口径47.0×45.0cm 高40.0cm
- ② 《縹舟2014》 2014年 口径49.0×48.0cm 高19.5cm
- ③ 《縹舟2015》 2015年 口径47.5cm 高18.0cm
- ④ 《蓋器-縹-2015》 2015年 幅13.0cm 奥行13.0cm 高33.5cm

戯画展

浮世絵

会期 ● 平成27年(2015)8月29日[土] ~ 9月27日[日]

美人、役者、風景、花鳥など、浮世(この世)のあらゆる事柄を描いた浮世絵はまた、戯画と呼ばれる一群の作品があります。これには風刺画、擬人画、影絵など様々なものが含まれています。戯画の作品は初期の時代から、七福神や年中行事、東海道などを題材に描かれてきていますが、とくに、天保の改革時、歌川国芳の作品によって人気が高まり、多くの作品が描かれるようになります。今回は後期浮世絵の時代から幕末・明治の時代を中心に、機知とユーモアたっぷりの作品を紹介します。



- ① 歌川国芳 「としよりのよふな若い人だ」 大判錦絵 弘化4年(1847)~嘉永5年(1852)
- ② 歌川国芳 「浮世又平名画奇特」 大判錦絵2枚続 嘉永6年(1853)

工芸

山口県無形文化財の工芸 — 萩焼・赤間硯・金工 —

会期 ● 平成27年(2015)6月16日[火] ~ 10月4日[日]

萩焼と赤間硯の工芸技術は、県内の無形文化財のうちの重要なものとして山口県指定無形文化財に指定され、現在は6名の個人が当該無形文化財の保持者(萩焼5名、赤間硯1名)に認定されています。また、昨年10月に国の重要無形文化財「彫金」の保持者(人間国宝)に認定された、山本晃氏も国の認定を受けるまでは山口県指定無形文化財の金工の保持者でした。このたびは、本県の伝統的な工芸技術として昭和31年度の認定から現在にいたるまで、認定を受けたすべての山口県指定無形文化財の保持者14名の作品30点を展示します。伝統的な手技が生み出す作品の美質をご堪能ください。



①



②



③

- ① 堀尾信夫 《瓜研》 昭和60年(1985) 縦15.4cm
- ② 大和保男 《塩彩貝目四方陶箱》 平成14年(2002) 幅25.7cm
- ③ 山本晃 《切嵌象嵌接合せ箱「白椿」》 平成21年(2009) 幅25.3cm

2015	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
7	普通展示(浮世絵) 橋口五葉 (~7/5)						特集展示 第23回世界スカウトジャンボリー開催記念 やきものと浮世絵に遊ぶ (7/7~8/16)																										
	普通展示(東洋陶磁) 古萩 (~7/5)																																
	普通展示(陶芸) 素材のかたち (~8/16)																																
	普通展示(工芸) 山口県無形文化財の工芸 萩焼・赤間硯・金工 (~10/4)																																
	特選鑑賞室 二代歌川広重 名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい (7/1~7/31)																																
	茶室 井上雅之の茶室 初形より一花型 (~2016/3/27)																																
特別展示 「図変り」大皿の世界 伊万里染付の美 (~8/16)																																	
GT ●						GT ●						GT ●						浮世絵 ●						GT ●									
8	特集展示 第23回世界スカウトジャンボリー開催記念 やきものと浮世絵に遊ぶ (~8/16)						普通展示(浮世絵) 藤岡 (8/29~9/27)																										
	普通展示(陶芸) 素材のかたち (~8/16)						普通展示(東洋陶磁) 緑釉陶器 (8/29~12/6)																										
	普通展示(工芸) 山口県無形文化財の工芸 萩焼・赤間硯・金工 (~10/4)						普通展示(陶芸) 陶一生命の讃歌 (8/29~2016/3/27)																										
	特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 両国花火 (8/1~8/31)						特別展示 木版画家 立原位貴 江戸の浮世絵に真似ぶ (8/29~9/27)																										
	茶室 井上雅之の茶室 初形より一花型 (~2016/3/27)						記念講演会																										
	特別展示 「図変り」大皿の世界 伊万里染付の美 (~8/16)						★																										
GT ●						陶芸 ●						GT ●						GT ●															
9	普通展示(浮世絵) 戯画展 (~9/27)						普通展示(浮世絵) 月百姿 (9/28~11/1)																										
	普通展示(東洋陶磁) 緑釉陶器 (~12/6)																																
	普通展示(陶芸) 陶一生命の讃歌 (~2016/3/27)																																
	普通展示(工芸) 山口県無形文化財の工芸 萩焼・赤間硯・金工 (~10/4)																																
	特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 猿わか町よるの景 (9/1~9/30)																																
	茶室 井上雅之の茶室 初形より一花型 (~2016/3/27)																																
特別展示 木版画家 立原位貴 江戸の浮世絵に真似ぶ (~9/27)																																	
GT ●						浮世絵 ●						GT ●						AT ▲						東洋陶磁 ●					GT ●				

展示替えのため休館

★イベント

KŌGEI WEEK

日時●8月1日[土]~8月5日[水] ※詳細はP.8をご覧ください。

アート・フェスティバル2015

子どもから大人まで楽しめるワークショップなど無料イベントが盛りだくさん!

日時●8月9日[日]

伝統画材ワークショップ (立原位貴展関連イベント)

日時●8月30日[日] 9:30~12:00 / 13:30~15:30

講師●上田 邦介 氏(絵具屋 三吉)、宮澤 千砂子 氏(六法美術)、池 加津夫 氏(土佐和紙)

日時●8月31日[月] 9:30~12:00

講師●森 芳範 氏(紺丸)、落合 雪野 氏(龍谷大学)

※詳細はP.5をご覧ください。

■記念講演会 (聴講無料 / 当日受付先着順)

日時●8月29日[土] 14:00~15:30

講師●立原 位貴 氏

演題●浮世絵版画の楽しみ方 -その素材と技術から見えるもの
場所●講座室(座席数84席)

●ギャラリー・ツアー (担当学芸員による特別展示作品解説)

「図変り」大皿の世界 伊万里染付の美

日時●会期中の日曜日 11:00~12:00

「木版画家 立原位貴 江戸の浮世絵に真似ぶ」

日時●9月6日[日]、13日[日]、27日[日] 11:00~12:00

▲アーティストトーク (出陳作家による作品解説 / 立原位貴展関連イベント)

解説●立原 位貴 氏

日時●9月20日[日]、21日[月]、22日[火] 14:00~15:30

■ギャラリー・トーク (担当学芸員による普通展示作品解説)

いずれも11:00~(30分程度)

7月11日[土] 山口県無形文化財の工芸 萩焼・赤間硯・金工

7月25日[土] やきものと浮世絵に遊ぶ(浮世絵)

8月 8日[土] やきものと浮世絵に遊ぶ(やきもの)

9月12日[土] 戯画展

9月26日[土] 緑釉陶器

※特集展示「第23回世界スカウトジャンボリー開催記念 やきものと浮世絵に遊ぶ」は、普通展示観覧券でご覧いただけます。

浮世絵、やきもの(東洋陶磁)の展示室で、それぞれギャラリー・トークを行います。

※ギャラリー・ツアー、アーティストトーク、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。

■交通アクセス

【新山口駅から】

●防長バスまたは中国JRバスで萩・明倫センターまたは萩バスセンター下車。
萩・明倫センターから徒歩約5分。
萩バスセンターから徒歩約12分。

【山口宇部空港から】 [萩・石見空港から]

●萩近鉄タクシー(奥合タクシー)約70分。
(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

●JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分。
●JR東萩駅からタクシー約7分。
●JR玉江駅から徒歩約20分。

【自動車】

●「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」給室ICから約20分。
●「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い。

